

批判の声相次ぐ どうする高校再編



柏木 幸平議員

柏木幸平議員 二月二十二日、町文化センターにおいて、宮之城高校・宮之城農業高校の再編整備の説明会が行われ、参加者から質問や抗議が多く出され、約四時間にも及んだ。

今回の決定はあまりにも唐突で、生徒・保護者そして地域の心情を無視した県教委の一方的な再編整備の決定である。両高校を受験する生徒は、不安を抱えたまま入試に臨んでおり、保護者も子ども心を痛めている。なかには、両高校から進路変更した子もあり、町内

からの入学者は、さらに減少している。

今後は、両高校の生徒の資質、学力のレベルアップを図り、保護者・地域住民・関係者への細かな説明により、十分理解を得て、新高校への移行措置の問題など、本町の対策会議等で対処すべきと思うが、町長の考えは、

北村町長 対策協議等においては、最善な移行措置や新高校の運営に対し、地元と一体となった学校運営が出来るよう県・学校関係者・保護者・地域による「地域運営学校」の設置等の実現に向けて、県当局に積極的に要望する。



いろいろ意見が出た県教委による高校再編説明会

中心市街地活性化事業の 今後の取り組みは

柏木議員 町商工会・商店街・個店では、賑わいを持続するために、いろいろな企画をし、自助努力をされている。しかし、関連の事業計画から五、六年が経ち、屋地・虎居

地区の商店街事業主の方は、事業への期待感と、事業完成までの移行期間の経営に不安を持っている。関係者への十分な説明により、理解を得て、中心市街地が衰退しない

ように、町も事業進展に、積極的な関わりを持つべきではないか。
行政として、厳しい判断も必要かと思うが、事業化検討調査、そして、東京でのTMO関係の勉強会などを踏まえ、今後の対策は。

町長 事業化検討調査については、最終的な報告書が出ないので、時間をいただきたい。また、勉強会については、ソフト事業の積み上げが重要であり、創造的な発想と、他の商店街にないような特徴を持った町づくりが必要である。

ハード事業は、行政も地元関係者も、リスクを伴うことから、十分な基盤づくりが必要であるとの意見が出た。

今後は、事業化検討調査の結果を踏まえて、慎重に進めるとともに、情報についても、関係者に適時につないでいく。